令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 植竹 小学校 ）　　学校番号　５４

【様式】

目指す学校像	○児童にとって学びがいのある学校　○保護者にとって頼りがいのある学校　○教職員にとって働きがいのある学校 ○地域にとって誇りのもてる学校

重点目標	１　ICT等を活用した「アクティブ・ラーニング」型授業及び教科担任制を通した授業実践 ２　人との関わりを大切にする児童の育成を目指した生徒指導・教育相談の充実と安全・安心な学校 ３　コミュニティ・スクールによる地域とともにある学校づくりの実現 ４　働き方改革の視点に立った職場づくりと教職員の能力の伸長のための指導・育成

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和７年２月１３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査やさいたま市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を上回っており、概ね良好な結果である。 ○全国平均と比較し、国語、算数とも無解答率が低い。（諦めずに取り組む力が高い） ○調べたことや自分の考えをまとめたり、分かりやすく表現したりできる児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、学習指導要領の内容において全ての項目で全国平均を上回っているが、国語の「書くこと」、算数の「変化と関係」については、他領域と比較して低い。	・ICT を活用した「アクティブ・ラーニング」型授業の実現	①国語、算数において、ICT における協働学習ツールの効果的活用を軸とし、これまで積み上げてきた指導方法（発問の仕方、板書、有益な教材教具を活用した指導）を効果的に組み合わせた授業を実践し、自分の考えを表現できるようにする。 ②本校の研究主題「かかわりながら考えて、わかる！できる！楽しい授業」の達成に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実践する。	①市が示す学びの指標の項目、「ICT の効果的活用」において、各学級の使用率の差が 0.5 ポイント以下に抑えられたか。 ②児童向けアンケートで ICT を活用した授業が楽しく分かりやすいと思うか。」の項目を準備し、肯定的な回答をする児童の割合が 80%以上になったか。	①昨年度の学びの指標が示す本校の最大値と最小値の差は 1.5 ポイントだったが、今年度は 1.0 ポイントだった。これは各教室における ICT の使用割合に差がなくなってきていることを示すものの目標値には届かなかった。 ②一方、ICT に係る児童向けアンケートの結果も学びの指標をもとに見ていくと、本校は市の平均値（3.20）を上回る「3.30」の数値であり、十分評価に値すると言える。 ※学びの指標…教師の授業力向上、児童の学びの向上を目指し、作成された児童向けアンケート。満点は「4.0」	A	数字上における上昇は見られるが、まだまだ道半ばであるため、引き続き実践を積み上げ、ICT の効果的な利活用を追求していく。特に、教員によって得手不得手が出てくる領域でもあるので、学期に１回以上の研修を行うなど、次年度当初に打ち出し、学校としての意気込みを示し授業実践に繋げていく。	ICT の授業内での活用について、各学級により使用率に差がみられることが分かった。学校として、全学級において、ICT を効果的に活用し、分かりやすい授業を展開しようとしていることが伝わった。 教科担任制は、各教員の「強み」を活かすことができ、さらに、多くの教員と子どもたちが触れ合う機会となるためとてもよいと思う。学校から提案のあった次年度の方向性における「地域の人材の活用」においても、教科担任制を含め、体育の水泳指導やサッカー等、専門性をもった協力ができるのではないか。
		・教科担任制による専門性を生かした授業の質の向上	①昨年度に引き続き、高学年９教科担任制を完全実施する。また、中学年学年内交換授業を実施する。	①教科担任制に関係する学校評価アンケート等の項目で肯定的評価 90%以上を維持することができたか。	①学校評価アンケートの「学校生活を楽しんでいる」「授業に意欲的に取り組んでいる」「学習で適切な指導や励ましを受けている」など教科担任制の教育的意義に係る項目では、いずれも９割以上の肯定的回答があり、一定の効果はあったとみている。	B	教科担任制のメリットの大きさがはっきりと出たこの２年間の結果だと思っている。したがって、次年度は高学年だけではなく中学年にも取り入れていく礎を作っていけるよう検討していく。	
2	〈現状〉 ○児童の学校評価アンケートでは、「いじめや悩みなどの相談に応じている」の項目の肯定的評価は９５．７%だった。 ○学校評価アンケートの「安全・安心に気を付けている」の項目では、児童、保護者、地域、教職員ともに９０%の肯定的回答が得られた。 〈課題〉 ○保護者の学校評価アンケートでは、「いじめや悩みなどの相談に応じている」項目の肯定的評価が９１．８%で、高い水準であるものの、児童の意識との差が生じていることも事実である。 ○安全面について肯定的な回答が多く得られているものの、遊具の劣化、空き教室の整備など、学校のハード面において早急に対応すべき課題がある。	・人との関わりを大切にする児童の育成を目指した生徒指導・教育相談の充実	①関係諸機関、SL、SC、SSWと連携を図った生徒指導、教育相談、特別支援体制を実施する。 ②いじめや悩み等に迅速に対応するため、生徒指導、教育相談、特別支援に関する会議を開催し、確実に対応する。	①関係諸機関、SL、SC、SSWと連携を図って、児童の支援、相談に応じることができたか。 ②保護者の学校評価アンケート「いじめや悩みなどの相談に応じている」項目の肯定的評価が昨年度の数値を「上回ったか。	①「スピードは誠意」を合言葉に関係諸機関等と密に連絡をとって対応できた。 ②学校評価アンケートの「いじめや悩みの相談に応じている」について昨年度が 91.8%、今年度が 91・9%と数字の上で若干上がったことを考えると一定の評価はできる。	B	児童、保護者、地域の方々の期待に応えられるよう、相談体制のさらなる充実を図っていく。学校が求められていることの一つに、「いじめが起こらない指導体制」、仮に起こっても「迅速な対応による早期解決」があると認識している。人の入れ替わりが多くある職場だからこそ、引き続き意識改革を実践していく。	教育相談体制について、本校の特色である「さわやか学習室」における登校支援を記載してもよいのではないか。また、各担任がさわやか学習室と教室を往復している現状、子どもたちにとって教員からの声かけがとても効果的である状況を鑑みると、学習支援ボランティアのみではなく、さわやか学習室（Sola ルーム）に教員を配置できるとよいのではないか。 施設の整備については、引き続き安全・安心な環境整備に努めるとともに、家庭・地域が連携して取り組んでいきたい。
		・安全・安心な学校生活を保証するための安全点検の実施	①毎月の安全点検を確実に実施し、結果について細かく確認し、事故を未然に防ぐ。 ②施設の整備については、教育委員会との連携を図るほか、ＰＴＡボランティア組織等に呼びかけ、協力を仰ぐ。	①安全点検の結果に基づく審査会を学期１回実施し、児童の事故防止（首から上の怪我防止）につなげられたか。 ②遊具や空き教室等の学校施設に係る整備を３つ以上できたか。	①毎月の安全点検、及び結果に基づく書面による会合を設け、児童の事故防止につなげることができた。 ②ビオトープをはじめ、教頭を中心とした校内の環境整備（３つ以上）が確実に実施され、学校が所有する財産の有効活用並びに効果的空間利用等、学校のハード面に係る安全性に十分に繋げられた。	B	引き続き、月１回の安全点検と日頃から複数の目で気に掛けて見ていく意識をもち、教育環境の整備に努めていく。	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会を年３回開催し、学校の現状と課題、目指す児童の姿（特にあいさつ）について、熟議を重ねた。 〈課題〉 ○昨年度に引き続き、今年度も、目指す児童の姿を積極的に情報発信し、家庭、地域に広めるようにする。また、SSN 等地域の教育力を活かした活動として何ができるのかを熟議し、その実現に向けた方策を定め、学校、家庭、地域それぞれの役割を明確にする。	・学校運営協議会や SSN 等が連動し、学校と地域の連携からなる取組の充実	①学校と地域が一体となって、目指す児童像に向けた地域と学校間における協働活動の企画立案、実施準備をする。 ②学校運営協議会での熟議の実施を年 3 回、確実に実施する。また、そのうち 1 回以上児童が参加した熟議とする。	①コーディネーターが中心となり、SSN 等地域と連携・協働し、人材バンク制度を新たに構築することができたか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた」と回答する割合が８０%以上になったか。	①学校地域連携コーディネーターを中心に教育活動に協力していただける地域の方の人材確保（人材バンク制度）を立ち上げ、SSN 協議会で活動意図を示し、地域の方の得意分野の把握と次年度の実践に向け、準備ができた。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた」と回答する割合が８０%以上であった。	A	一人でも多くの人材バンク登録者を募集し、様々な分野におけるプロをお招きして、質の高い授業を児童に提供をしていく。 児童の姿を共有できるよう、次年度の学校運営協議会においても児童の参加を積極的に取り入れ、熟議の活性化を図っていく。	地域にはたくさんのつながりがあり、人材がある。人材バンクという形でデータベース化したり、地域に向けて広く広報を行ったりすることで、学校に地域の力が集まってくるのではないか。 学校に足を踏み入れる機会として、クラブ活動や委員会活動はより機会として適当な場ではないだろうか。 学校運営協議会での熟議内容をＳＳＮ協議会等を通じて発信し、広げていってほしい。
		・学校の情報発信と学校行事の充実	①学校運営協議会や SSN に関する情報を学校だよりや学校 HP を通じて発信するなど、広く広報活動を行う。	①情報発信に関する学校評価（保護者、地域）の肯定的評価が８０%以上となったか。	①学校評価アンケート「学校の様子がよく分かるようにしている」では保護者からも 94.3%の肯定的な回答をいただき、十分達成したと認識している。	B	情報発信については、各種便り、HP などで引き続き積極的に行うと同時に、保護者や地域の方々が学校に足を踏み入れる機会を増やしていくことも検討していきたい。	
4	〈現状〉 ○管理職による授業参観を全教員１回以上行い、授業づくりチェックシートに基づき、指導助言を行ってきた。 ○指導主事を招聘しての研究授業や研究協議会を開催し、教職員の指導力の向上を図ってきた。 〈課題〉 ○ＩＣＴの活用における技能の差をなくすため、さらなる校内研修が必要である。	・ＩＣＴの活用を基盤とした新しい学びへと挑戦するための指導研修の実施	①全教職員のＩＣＴ技能を向上させるためにＩＣＴ教育推進部主催の研修を毎学期に１回以上行う。 ②授業参観や学校公開日、校内授業研究会等の機会を捉えて、全教員が ICT を活用した授業公開を年に１回以上公開し、スキルアップを図る。	①ICT の技能向上に係る校内研修を学期１回以上実施することができたか。 ②全ての教員が ICT を活用した授業公開等を年１回以上行い、公開することができたか。	①学期１回以上（月１回程度）校内研修を実施し、その成果を日々の授業実践に繋げることができていた。 ②今年度は本校の研修に基づき、一人一授業以上を公開したが。どの授業も ICT を効果的に活用し、授業実践に取り組むことができた。	B	次年度以降も ICT を活用した授業実践に係る研修を学期１回以上行い、日々の授業実践に繋げられるようにする。 また、互いに ICT を活用した授業を見合う時間を設定することで、研修の成果を深められるようにする。	年間を通した一人一授業の取組は、教員の年齢や経験が様々である中で、とても意味のある研修だと思う。 ICT の分野においても地域の力の効果的な活用が図れるのではないか。 次年度についても学校公開日等を活用し、「盆栽村誕生１００周年」を祝す取組等、本校独自の取組を展開してほしい。